



島根大学広報誌

# しまだい

s h i m a d a i

広報しまだい

2017.4

vol. 32

特集1

医学部サークル「SCOP」

## 心肺蘇生の 全国大会で 総合優勝

特集2

地域に貢献する島根大学へ

平成29年度より、学部及び大学院  
組織改組を実施

特集3

オールしまねCOC+事業

しまね大交流会2016開催



# 医療サークルSCOPが心肺蘇生の全国大会で優勝

(※)

※SCOP... Skill Conquest and Output Programの略



猛練習を重ねて医療手技の精度を高める

島根大学医学部の医療サークル「SCOP」が、心肺蘇生の技術を競う「第2回全国CPR（心肺蘇生法）選手権大会」で、総合優勝を果たしました。昨年の第1回大会では惜しくも優勝を逃し、総合8位。実習等で忙しい合間をぬって練習を重ね、昨年の雪辱を果たしました。

## 成人と乳児の2部門で健闘 全国28チームの頂点にたつ

本学医学部医学科5年生（現6年）の吉岡祐樹さん、平井恒太郎さん、三宅悠介さん、長野奈津子さん、野津百合子さんの5名が、「Team SCOP」として全国心肺蘇生選手権大会に挑戦しました。この大会は、日本救急医学会が主催し、全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的に、昨年から開催しているものです。今年の大会は全国7ブロックの予選に28チームが参加。SCOPは、8月27日に呉共済病院で開催された中国・四国ブロック予

【特集3】

しまね大交流会2016実施…… 07

■世界へ広がる 世界とつながる …… 09

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①教育学部 御園真史 准教授 …… 13

②総合理工学研究科 横田正幸 教授 …… 15

■しまだい×島根のまち[松江市] …… 17

■しまだいいり …… 19

■しまだいActive …… 21

■キラリ島大生 …… 23

■女性研究者ご縁ネット …… 24

■しまだいのs サークル …… 25

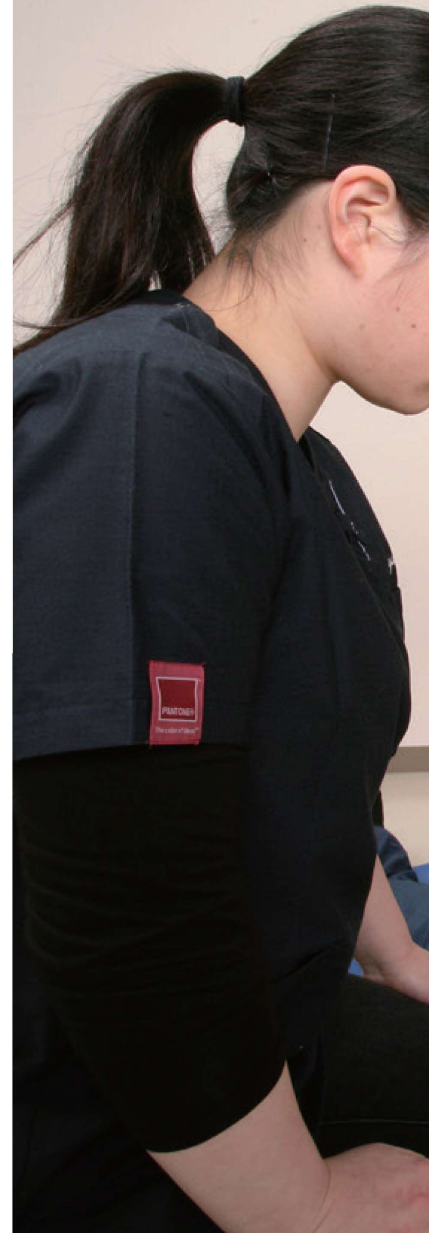
■島根サノオマジック活動紹介

島根大学支援基金寄附者一覧

読者プレゼント …… 26



(左から) 吉岡祐樹さん、平井恒太郎さん、三宅悠介さん、長野奈津子さん、野津百合子さん



SCOPメンバーの  
心肺蘇生技術はコレだ！

スマートフォン、携帯電話のバーコードリーダーで読み取ってください。動画が流れます。

選を1位の成績で突破し、10月15日の慶應義塾大学信濃町キャンパスで開催された決勝大会へと進みました。決勝大会には、予選を勝ち抜いた14チームが出場。1チーム5人で編成し、いずれも人形を使って、3人で行う成人実技を2回と、2人で行う乳児実技1回で競いました。計3回とも、競技前に出場選手が指名され、胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの3動作の正確さを競いました。

その結果、乳児部門で102点と満点を超える点数をあげ、総合得点が289・61点という高得点で総合優勝しました。昨年の第1回大会では成人部門は1位だったものの、総合では優勝を逃していました。当時のメンバーだった6年生（現在は卒業）が今回の5名を指導して雪辱を果たしたことは、医学部の素晴らしい伝統の一つが育っていることを表わしています。



## 医学生同士で教え合い 臨床の知識を深めるSCOP

医学部附属病院のクリニカルスキルアップセンターで活動するSCOPは、2012年に発足した学生サークルで、医学生が自ら医療手技を学び他者へ伝えるプログラムを実践しています。

SCOP発足の発端は、「OSCE(オスキー)」のための医療手技の練習を、もっと時間をかけてやりたいとの想いからでした。オスキーと

は、医療手技認可のための試験のことで、これに合格することが、医学部生が臨床実習に進むための条件になっています。大学のカリキュラムにも、臨床実習に向けて身に付けるべき手技を教える期間が1ヶ月あります。ただ、もう少しじっくり学びたい、また、興味のあることについても学ぶ機会がほしい、そんな想いがSCOPの発足につながりました。

SCOPは、学生自らが主体的に活動する場なので、各代によって活動内容も様々。発足時からの変遷と歴

史がある中で、今回心肺蘇生の大会で実績を残したことについて、「自分たちの技術が第三者から評価されたという点でも、SCOPの活動に意味があるし、ひとつの財産になったんじゃないかなと思う。」と、メンバーの吉岡さんは話します。

## 多方面のバックアップを受け ひとつの手技を極める

メンバーが選出されたのが大会の約半年前。それ以降、実習が終わってから3、4時間の練習を重ねてきました。全員が集まって練習できる機会には少なかつたものの、集まった時にはしっかりと息を合わせてできるのは、メンバー間の信頼関係があったからこそ、と当時を振り返ります。

練習面では様々な方面からのサポートがありました。「すべてが手探り状態だった昨年に比べて、今回は前回大会の評価基準やノウハウを先輩方に教えてもらって、事前の準備ができた状態で大会に臨めました」と、リーダーの三宅さん。また、練習用の部屋を用意してもらったり、練習器具を準備してもらったり、先生に練習を見に来てもらったりと、大学からのサポート

も手厚かったと言います。

猛練習を経て臨んだ決勝大会の様子について、吉岡さんは「大学のカリキュラムをこなしていくといった大学の日常とは違って、ひとつの手技の完成度を高めるといってはなかなかないこと。本気で練習して、各ブロックを勝ち抜いてきた参加者たちが一堂に集結するというのはすごくレアな空間だった。」とその時の印象を語ります。「手技のクオリティを高めたことに意味があるというよりは、それに取り組んで考えたことに意味があったと思うし、学生の時にそれをやることに意味があったんじゃないかなと思います。」と長野さんが続けます。

今回の経験を通して、さらなる飛躍を目指すSCOPのメンバー。これからの活動で目指すのは、自分たちが身に付けた知識や技術を、地域や一般の人に普及していくことだと言えます。「手技を伝える機会を自分たちで作って増やしていく必要があると思うし、何かあったらSCOPを呼んでももらえれば、いつでも教えにいきたいと思います」と力強く語ってくれました。広い視野をもって、様々な分野への挑戦を続けるSCOPの、今後のますますの活躍が期待されます。

**練習をきつくしても、必ずみんな付いてくる。  
全員が積極的に動ける最高のメンバー!**



リーダー  
**三宅 悠介さん**

今回のメンバーは、大会に向けて全員が積極的に動ける人たちでした。メンバーそれぞれが得意な分野があって、揃って練習する際にも良い信頼関係があったと思います。練習にあたって工夫したことと言えば、あえてキツイと思うくらいの練習メニューを組んだことです。自分が無理をすれば、その分だけ必ずみんなが付いてくるので、練習の評価も厳しく設定することで全員の意識やラインを上げていきました。それが良い結果につながったと思います。



メンバーにINTERVIEW!

**練習を  
振り返って。  
今後の目標は?**

Skill Conquest and Output Program

**実践を重ねて評価基準を徹底分析!  
今後はこの経験を広め、伝えていきたい**



**平井 恒太郎さん**

競技の採点はコンピュータなので、どんなやり方をすれば点数が高くなるかハッキリとは分かりません。そこで、回数を重ねて試行錯誤し、点数の上げ方を研究・分析し、こうしたらいいのではというのをメンバーに提案していました。今回の手技は、医者になれば必ず必要な技術なので、それを早くからマスターしているというのはこれからの自信になりました。経験者として他の人へアドバイスもできるので、お互いに高め合えたりもすると思います。

**僕たちを技術普及のために使ってほしい!  
今後をもっと積極的に外に出ていきたい**



**吉岡 祐樹さん**

大会に向けて練習する以前から手技をやっていたので、ある程度は慣れていました。なので、今まで持っていた技術の精度をより高めることに重点を置いていました。優勝後、学生でありながら医療者にBLS(※)を教える場面が出てきたことは嬉しかったです。今後は一般向けにも普及の機会を増やしていきたいですね。例えば自分の出身高校で、救命処置の講習が開けないかなど、もっと能動的に働きかけをしていかなければと考えているところです。

※BLSとは…一次救命処置

**ひとつの手技をとことん極めることは  
学生だからこそできた貴重な経験だったと思う**



**長野 奈津子さん**

練習期間中は、胸骨圧迫の1分間の目標回数である108に近いテンポの曲を毎日聴いていました。一番怖いのはテンポがとれなくなることだったので、とにかく何回も聴いて頭に叩き込んでいました。そのせいか、今でもテンポは自信がありますね。将来的に、心肺蘇生が必要な場面にどれくらい会うかは分かりませんが、ひとつの手技をここまで極めようと思って取り組むことはそんなにならなかったので、このような機会をもらえたことは貴重でした。

**外部の大会での技術を評価されたことは  
自分にとって自信につながりました!**



**野津 百合子さん**

大会の練習で大変だったのは、やはり実習中だったこともあって、全員揃っての練習ができなかったことです。でも、大会前最後の1週間は毎日みんなで練習に臨めたことが良かったです。CPRは、医療従事者でなくても一般の人でもできることです。逆に言えば、今後医療者を目指す上で出来なければいけないことです。この技術が、学生でありながら外の大会で評価されたことは嬉しかったですし、CPRに対する自信につながりました。

# より魅力ある、地域に貢献する島根大学へ 平成29年度より順次、学部及び大学院組織改組を実施

地域に貢献することを使命とする島根大学では、大学としての目指すべき改革、機能強化の方向性を明確にするため「法文学部」、「教育学部」、「総合理工学部」、「生物資源科学部」及び理系大学院の教育研究組織を平成29年度より順次見直し、改組を行うこととなりました。

## 組織改組全体の目的とは

平成29年1月24日に「理系学部・大学院研究科の改組構想」、31日に「法文学部、教育学部の組織見直し等及び教育学部附属学園の改組構想(案)」



について、それぞれ服部学長を始め、各学部長等出席のもと記者会見を行いました。いずれも、島根大学の機能を今まで以上に強化し、各学部等の強みをより発

揮できる組織へ改組することで、地域の要請に応じた人材育成や研究の推進を目的としたものです。平成29年4月から順次各学部の改組を実施する予定で、スムーズな移行措置等にも配慮しながら進めていくこととなります。

## 法文学部

平成29年4月より学部組織の改組を行います。少人数教育の徹底化を図るほか、「法経学科」では3年次より三つのコースを設け、なかでも弁護士や司法書士等を目指す人のために司法特別コースを新設。また、「社会文化学科」でのフィールドワークの重視や新たな地域演習の新設、「言語文化学科」では従来の分野の枠組みをなくし、専門領域を明示するなど多様な領域での専門性を高める学びを可能

とします。そして、「キャリアゲート制」を設けて社会人力強化教育を行い、目指す仕事に就く力や仕事で活用できる力を養成します。

## 教育学部・附属学校園

平成29年4月より学部組織、平成31年度より附属学校園の改組を行います。これからの教員に求められる小中一貫教育に対応した教員養成とするため、異校種(小学校と中学校)の免許取得を可能とする教育課程へ変更します。附属学校園は、これまで幼稚園、小学校、中学校で行われてきた一貫教育をさらに発展させ、従来の小学校6年と中学校3年の合計9年の修業年数とする新たな学校種別である「義務教育学校」へと移行します。また名称も「附属学園(仮称)」とし、幼稚園、義務教育学校、学習生活支

援研究センターが一体となった運営を行います。

## 総合理工学部

平成30年4月より学部組織の改組を行い、これまでの5学科を7学科へ再編。材料工学の分野を学ぶ「物理・マテリアル学科」「物質化学科」を新設するほか、中国地方で建築を学べる大学が比較的少ないことから、建築に特化した「建築デザイン学科」を設けます。また、島根大学としては初の試みである「留学生特別コース」を学部内共通教育コースとして新設し、海外から受け入れた学生を日本企業でも活躍できる人材に育成します。その他、学部から大学院博士前期課程への「貫コース」を構築し、より高い研究能力と課題解決能力を引き出す教育を行います。

【図①】地域からの要請と自然科学研究科の各専攻・コースとの関係



地域からの要請に対応できる専攻構成としています。

左図は、「地元企業へのアンケート結果等から明らかになった、地元企業が島根大学に強化してほしいと考えている分野」、「島根県総合戦略等に謳われている、地元自治体が強化しようとしている分野」と自然科学研究科の各専攻・コースの対応関係を示したものです。この図からわかるように、新研究科は地元からの要請と島根大学の強みを強く意識した教育体制を敷いています。

同様のことは、(新)総合理工学部、(新)生物資源科学部についても言えます。

## 生物資源科学部

平成30年4月より学部組織の改組を行い、従来の4学科を生命機能の解明と生物資源の利活用について学ぶ「生命科学」、食糧生産技術の開発と安定供給について学ぶ「農林生産学科」、生態環境の保全・修理・管理や利用について学ぶ「環境共生科学科」の3学科に再編します。これにより、地元企業や自治体より要望されている食品製造業、ヘルスケア産業、食品の製造から加工販売までを行う六次産業化、環境技術に対応することで、国際的視野に立つて、地域社会で活躍できる人材の育成を行うことが可能となります。

## 理系大学院

島根大学の持つ強みと地域社会からの要請をふまえ、平成30年4月より従来の総合理工学研究

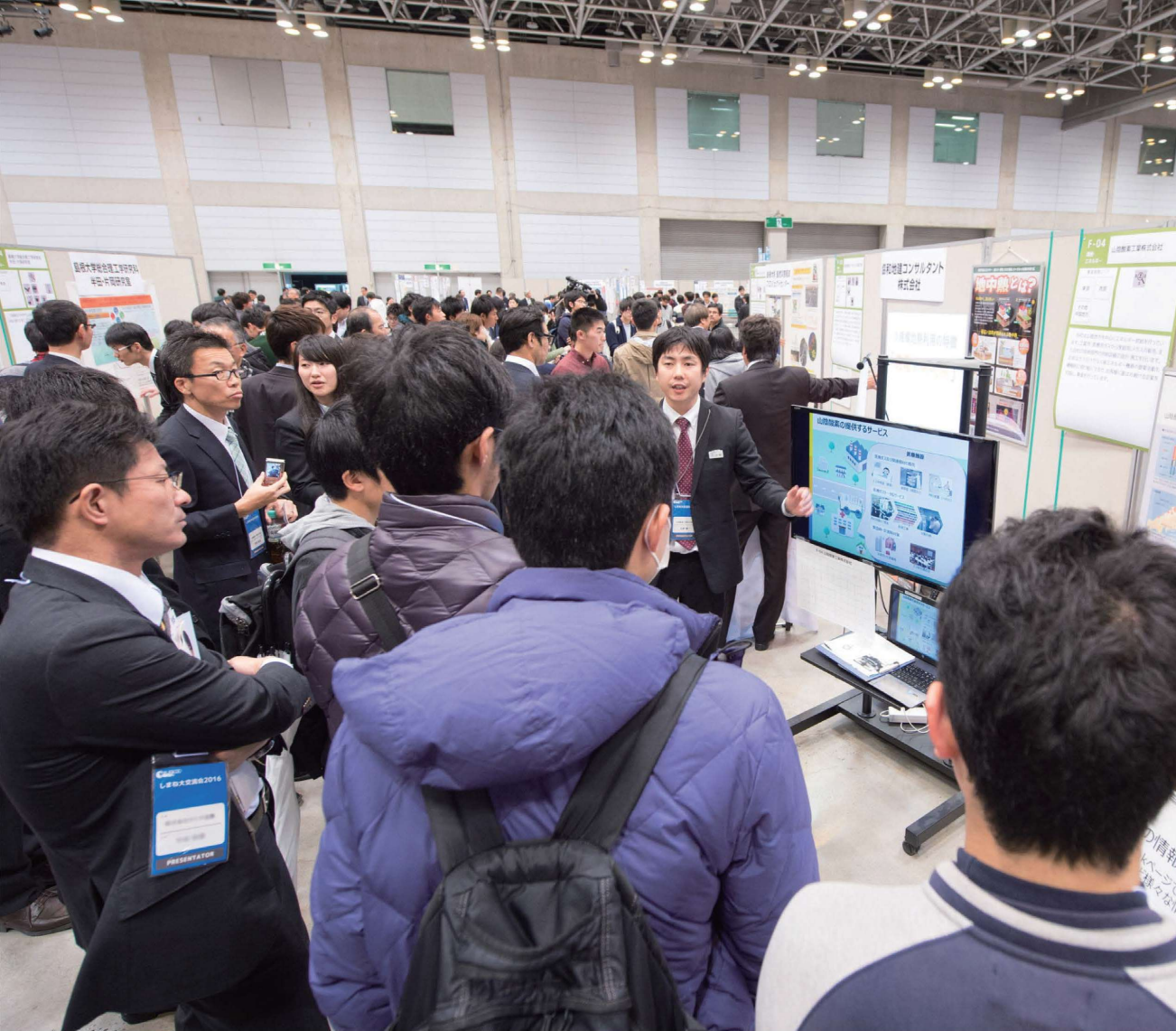
科と生物資源科学研究科を統合して「自然科学研究科」を創設します(図①参照)。主な変更点として、総合理工学研究科と生物資源科学研究科に分散していた「環境」に関する教育・研究資源を集めて「環境システム科学専攻」を新設します。地球全体から居住空間までを一連の環境システムととらえ、それらを総合的に教育します。また、幅広い学問領域を含む特徴を生かし、高度な専門知識と学際的視点を持った創造性が豊かで、地域社会の発展に寄与していく人材を育成します。

今回の各学部及び理系大学院の組織改組は、取り組みの大きな枠組み、概略となります。組織の詳細や個別の学習プログラム等については、進捗に合わせ、島根大学ならびに各学部のホームページにて、随時発表していきます。

※この改組内容は、現在文部科学省と折衝中であり、認可までに内容が変更になる場合があります。

# 「しまね大交流会2016」開催

未来を担う若者と地域の出会いの場



島根大学が基幹校となり、県内高等教育機関が連携して実施している「オールしまねCOC+事業」の一大イベント「しまね大交流会2016」が、12月11日(日)、松江市のくにびきメッセ大展示場において開催されました。

## 会場に「地域」が凝縮 将来を考えるきっかけに

「しまね大交流会」は、「未来を担う若人と地域の人・シーズ・ニーズが出会う大交流会」をテーマに、島根県内を中心とした大学生や中高生の地元への就職・進学幅を広げ、地域への若年層の定着を図るキャリア教育の一環として、島根大学、島根県立大学、島根県立大学短期大学部、松江工業高等専門学校、島根県の共催という形で昨年より実施しています。

当日は、企業から121、自治体から19、NPO・その他団体から16、各大学・高等専門学校から72団体の計228ブースが出演し、学生約700名を含む1600名以上が来場、昨年を上回る賑わいをみせました。

オープニングでは、しまね大交流会実行委員長である佐藤利夫副学長が音頭をとり、来場者・出展者全員による「エイエイオー」の決起の掛け声とともに開会。来場者と出展者、そして出展者間の活発な交流が続き、最後のクロージングまで熱気あふれる交流会となりました。



文部科学省 地(知)の拠点

しまねCOC

文部科学省 地(知)の拠点

オールしまねCOC+



## 各自の魅力を5分に凝縮 満足度の高い交流会に



本年度の交流会では、来場者と出展者の自由な交流時間のほか、新たな試みとして、出展者が各自のブースで自らの魅力を5分間に凝縮して伝える「5分間プレゼン合戦」を実施し、そのプレゼンを聞いた来場者が良いと感じたブースに投票するワークを6回行いました。5分間プレゼンでは、興味のあるブースの前で、多くの来場者が熱心に耳を傾けていました。クロージングでは、投票数が多かったブース上位3団体が発表され、1位は「セコム山陰株式会社」、2位は「奥出雲町」、3位は「島根大学自然災害軽減プロジェクトセンター」が、それぞれベスト



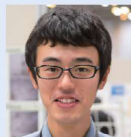
トブース賞に輝きました。

来場者の学生からは、「インターネットで調べるだけでは分からない企業の概要や、特徴を知ることができた」、「経営者と直接話せる機会がめつたにないの、とても貴重な交流ができた」、「自分の専門分野に関わるブースがたくさんあって、興味深く話を聞けたし、将来が具体的にイメージできた」などの意見がありました。出展者からも、「学生が企業に対してどのようなイメージを持っているのかが良く分かった」、「学生の熱意が感じられて、自分たちも元気をもらえた」、「仕事上接点のない業種の方とも交流ができて興味深かった」など、好評価が聞かれました。すでに来年度の出展に向けて意欲を示すブースも見られるなど、今後が期待される交流会となりました。

## 出展者の声

山本 祥平 さん

中国環境株式会社



弊社は水処理グループをはじめ様々な分野があり、これらの技術を総合的に活用した事業を行っています。今回は、専門分野が関係する学生さんにたくさんブースに来ていただけました。私自身入社して数年なので、学生さんに近い立場で話ができ、興味を持ってもらえて良かったです。

林 幹夫 さん

NPO法人里山バイオマスネットワーク  
LLP新エネルギーシステム研究所



前回よりも賑わいがあった、学生さんと話してパワーをもらいました。バイオマスについてまだ知らない人が多く、もっと普及していかなければいけないと再認識しました。私たちの活動を理解してもらう場合は常々ほしいと思っているので、島根大学の取り組みは素晴らしいと思います。

水野 亜美 さん  
平井 美穂 さん  
神崎 奈津 さん

島根県立大学松江キャンパス 健康栄養学科  
しまね三味食品科学研究所 龍橋有紀子研究室



私たちはジビエを使った食品の商品開発を行っています。今回は小泉八雲が残したレンピをもとに、猪肉と県産食材を使った「ガンボスープ」を中心に紹介しました。研究成果を知ってもらえたこと、食品関係の企業ブースで様々なお話が聞けたことは、とても良い経験になりました。

松永 和平 さん

株式会社 松永牧場



初めての参加でしたが、学生さんが持っている牧場経営のイメージが現実とはかなり違うことに驚きました。牧場というと、家族経営を思い浮かべる人が多く、大規模経営のことはあまり知らないようです。弊社の実際を知ってもらい、興味を持ってもらう良い機会になったと思います。

糸賀 夏樹 さん

奥出雲町  
地域おこし協力隊



「町の活性化にはみんなの協力が不可欠である」ことを伝えたく、参加型ブースにしました。その結果来場者に興味を持ってもらえたようです。奥出雲町は言葉の印象で実際よりも遠く感じる場所。島根大学のこのような取り組みが、町を広く知ってもらうきっかけに繋がることを期待しています。



# 世界へ広がる 世界とつながる

International exchange of Shimane University

1. 現在、世界167ヶ国で行われているTEDx。国内でも、東京や大阪をはじめ、数年前から各地で継続的に開催。写真は「TEDxShinshuUniversity」の様子。 2・3. 運営メンバーによる打合せの一コマ。



## Episode. 1

### 「縁」をテーマにアイデアを発信 地方版TEDを 5月21日に本学で開催

1984年にアメリカで始まったTED (Technology Entertainment Design) は、「Idea Worth Spreading(広がる価値のあるアイデア)」のコンセプトのもと、様々な分野の第一人者がアイデアの発信を行うものです。このイベントの地方版「TEDx(アイデアックス)」が、5月21日島根大学において、中国地方で初めて開催されます。「TEDxShimaneU」と題し、学生が運営の中心となっており、準備を進めているところです。

5/21(日)島根大学 大学ホールで開催の「TEDxShimaneU」の詳細はココでCheck!



島根開催の  
発起人に  
聞きました!

「島根開催のきっかけは？」  
きっかけは、文部科学省が行う「トビタテ！留学JAPAN」で出会った学生の存在でした。国内で関わりのあったトビタテの学生に加えて、オーストラリア留学中に現地の学生と交流する中で、島大の学生は留学する人が圧倒的に少なく、県外に出る人が少ないという状況があることに気付きました。島大生がなぜ外に出ていけないのかと考えた時に、自信が持てない、経験がないからというのが理由として考えられると思いました。そうなる、これが身に付く場所を作らなければいけない。その場として思い浮かんだのがTEDxでした。

「このイベントに期待することは？」  
運営メンバーに、チームとしての達成感と自信を得てほしいです。でも、自分たちだけのイベントではないので、見に来てくれる人をはじめ、他者から認められるようなイベントにしたいなど。また、アイデアを発信して終わりではなく、アイデアを受け取った人たちの人生が良い方向に向かったり、考え方が変わったりするようなイベントにできればと考えています。ぜひ地域の方にも足を運んでいただきたいです。

「今回のテーマは？」  
テーマは「縁」です。一つは、

TEDxで世界とアイデアを結ぶ縁を作ること。人・地域・歴史の三つが強く結び合っていることが島根の大きな武器だと思っています。その根本に



総合理工学研究科 2年 樋口 進哉 さん

Episode.

2

「環境」の側面から日本の魅力を発信

## JENESYS2016(タイ)に派遣



平成28年11月22日〜30日に  
渡つて、島根大学生22名が外務  
省の対日理解促進交流プログラ  
ムJENESYS2016(タイ)の  
枠組でタイに派遣され、現地の  
大学生との交流や、タイに進出  
している日本企業訪問等を行い  
ました。  
本プログラムは、日本とアジア  
大洋州の各国との間で、政治、

経済、文化等の多様な分野で対  
日理解を促進し、親日派を發掘  
し、被派遣者は日本を対外的に  
発信することで、日本の外交を  
民間ベースで拡充することを目  
的としたものです。

今回の派遣に際しては、伝統  
文化やポップカルチャーに重点が  
おかれていた従来の「日本の魅  
力の発信」とはやや異なり、「環  
境」という観点でタイにおいて発  
信することが期待され、22名は  
その観点で選抜されました。島  
根県が抱える宍道湖を中心と  
した水環境、気候変動と防災、  
都市交通、伝統文化のグループ  
に分かれ、それぞれの分野の日  
本の現状と課題について、タイ商  
工会議所大学、チャンドラカセ  
ム・ラジャパット大学では、相互に  
プレゼンテーションを行い、意見  
交換と交流を行いました。ま  
た、ホームステイではタイ人の生  
活を体験しました。参加した学  
生たちは、タイへの理解を深め  
るとともに、タイとの交流を継  
続し、友情を育んでいくことを  
誓いました。

### 参加した学生の声

人によって視点は様々。  
対面で話すことの  
大切さを痛感しました。

私は国際協力に興味があり、  
タイは開発途上国のイメージが  
あったため、このプログラムに  
応募しました。今回の経験で最も  
重要だと気付いたことは、現地  
の人たちが生活で何を重視して  
いるのか、何を求めているのかを  
知る必要があるということです。  
私たちが問題に思うことが、実  
は現地の人にとっては必ずしも  
そうではない場合があることに  
気付きました。現地の人の想い  
や、そこに根付く文化も大切に  
し、それを踏まえた上で、次のス  
テップに進んでいかなければい  
けないと感じました。



生物資源科学研究科 1年  
藤井 春菜 さん

Episode.

3

## 国境をこえてチャレンジする学生たち 留学生・留学体験紹介

現在島根大学では、26か国・地域からやってきた195人の留学生が学んでいます(2017年3月現在)。また、日本人学生も毎年約200人が世界各国へ羽ばたき、さまざまな挑戦をしています。留学経験のある学生に、留学体験についてお話をうかがいました。

TO



留学先

ニューカッスル大学  
(イギリス)

長尾 愛さん

(生物資源科学部 農林生産学科 2017年3月卒業)

### 農業好きを改めて実感 この経験を役立てたい

大学3年時に参加したカナダでの英語研修で、自分の英語力のなさに愕然とし、そこから長期留学を意識し始めました。文部科学省が行う『トビタテ!留学JAPAN』に応募し、4年の時に私の専門である農業をさらに学ぶため、イギリスとオーストラリアに半年ずつ留学しました。イギリスでは有機農業研究所に所属し、有機農業と慣行農業の比較研究を行っていました。また、研究後に毎日3時間自習の時間を設けて、英語の本を読んだり論文を読んだりして有機農業に関する知識を深めました。この留学を通して、「農業が好きで、農業に携わる仕事がしたい」という想いが確信に変わりました。海外の有機農業の知識も得たので、日本と海外お互いの良い部分をインプット・アウトプットしていけたらと考えています。



1. イギリス留学中のひとコマ。研究所のメンバーとともにジャガイモ収穫の真っ最中。  
2. オーストラリアの有機農家さんにて。有機農業ボランティアに参加し、各農家で農業体験をしました。



FROM



出身校

ダッカ大学

(バン格拉デシュ)



Em-dei-sha-mim-aziz  
Md Shamim Azizさん  
(総合理工学研究所 特別聴講学生)

島根大学と先生たちの  
様々なサポートに感謝

バン格拉デシュでは日本が人

気です。私もいつか日本に行け  
たらと思いい、大学で日本語や日  
本文化等勉強していた折に、島  
根大学と交換留学のシステム  
があることを知り、留学が叶い  
ました。島大に来てラッキーだっ  
たことは、総合理工学研究所  
に英語で授業を受けられるプ  
ログラムがあったことです。日本  
語を勉強したとはいえ、専門用  
語などが難しく不安なことも  
多かったのですが、本当に助かりま  
した。現在は、津波をシミュレー  
ションしたり予測したりするプ  
ログラムの研究に関わっていま

すが、所属学科の先生が本当  
に親切で、先生の助けがなけれ  
ば何も学んだり体験したりで  
きなかつたと思います。もうす  
ぐ留学期間が終わってしまひ  
ますが、チャンスがあればぜひ  
また島根大学に戻ってきて、研  
究を続けたいですね。

1. 和菓子職人に教わりながら、  
和菓子作りに挑戦。2. 松江市  
島根町の桂島で、所属する地  
球資源環境学コースの学生と、  
夏のバーベキュー大会を実施。  
島根の美しい自然にも感動。



TO



留学先

北京大学

(中国)



Naoya Takahashi  
奈良 嘉晃 さん  
(法学部 法経学科 2年)

学内で語学の基礎を作り  
現地でさらに力を伸ばす

「本場のレシピで中華料理  
を作ってみたい」。それが、中国

語に興味を持つきっかけでし  
た。私は中華料理を作るのが  
好きで、本場の作り方を知る  
ために中国語の料理動画を見  
るようになり、そこから中国  
語の勉強を始めました。また、  
大学入学後すぐに中国人留  
学生と交流する機会に恵まれ  
たこともあって、6月には中国  
語検定4級を取得し、1年の  
夏休みに中国へ短期留学する  
頃にはある程度中国語が話せ  
るようになっていました。留学  
は1ヶ月という短い期間でし

たが、スキルアップできた実感  
がありますし、中国の実際の  
暮らしを体感できたことが何  
より貴重な経験でした。私は、  
これから経済を専門で学ぼう  
と考えているので、中国の経済  
をよく知って、経済を通した日  
本と中国の関係について研究  
していきたいです。

1. 北京大学で一緒に学んだ  
中級クラスのメンバーと。2.  
世界遺産の名園「頤和園」に  
て。授業以外の自由時間は、北  
京市内の様々な場所に出かけ  
て、実際の中国を存分に体感。



教育学部

# 知れば世界が変わる 数学の奥深さ まず「ことば」の理解から

小学生高学年くらいになると算数が難しくなり、苦手に思う子どもも少なくありません。教育学部数理基礎教育講座の御園真史准教授は、「原因の一つは、数学で使う『ことば』をきちんと理解していないこと」と考え、新たな授業デザインなどを研究、提案しています。御園准教授にお話をうかがいました。

学校での数学の授業に違和感を覚え始めたのは、大学の教員養成課程で学んでいた頃だと言います。「例えば、世の中では音を三角関数によって表現したり、保険商品の設計に数学を駆使したりしている。実は、日常生活や社会生活のあらゆるところに数学が潜んでいます。しかし今の学校教育は、あまりそのようなことに触れず、入試を意識してか、問題を速くたくさん解くことに力が入りがちになっている。数学を使うことを意識して授

数学におけることばの問題  
きちんと読めていますか

業ができれば、子どもたちの将来の選択肢は大きく変わるはず」と御園准教授。では、どうすればきちんと学ぶことができるのでしょうか。数学を活用できる力を身に付けるためには、数学そのものに対する理解を深めておくことが重要です。そこで御園准教授が注目したのが、「ことば」です。

数学の教科書で使われていることばを分析したところ、「数学の専門用語」と「日常生活でも使うが、数学では違う意味として使うことば」が全体の約6割に上ったそうです。

御園准教授は、「子どもたちにとって外国語に近い感じかもしれない」と苦笑しつつ、「よくある話です

# 01



教育学部 数理基礎教育講座

## 御園 真史准教授

Misono Tadashi

【専門分野】

数学教育、教育工学

東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士後期課程修了。2010年10月に島根大学教育学部へ。「とにかく学校現場に出る」ことを重視し、現在は算数・数学の授業デザインに関する研究を行っている。

気になるキーワード

### 意味が分かる算数・数学 活用できる算数・数学

算数や数学が苦手になる原因の一つは、数学的な文章の意味が十分理解できていないこと。つまり「ことば」の問題だと御園准教授は考えています。算数・数学の概念を学ぶことが大事。「数学の本当の価値が分かれば、子どもたちの将来は大きく変わるはず」と御園准教授。きちんと指導できる教員の養成も不可欠です。

が、一度数学が分かるようになってくると、数学が分からない人の気持ちが分からなくなってしまうものです。子どもたちが分かることばで教えることも大事だし、一方で数式や数学术語が含まれた文章の意味をきちんと理解する経験も大事なことです。そうしないと、自分で数学的に表現することは難しいでしょう」と強調します。

今、松江市のある中学校の先生方を中心に「読む」ことに重点を置いた指導の実践にも取り組んでいます。御園准教授自らも積極的に教員らとの勉強会に出向いているそうです。「最終的には、数学の本を自分で読んで意味理解できるようにすることが目標です。算数・数学で学ぶ概念の意味理解はすぐにできるようにするわけではないので、一見、遠回りにも見えますが、実は数学ができるようになるための近道です」。

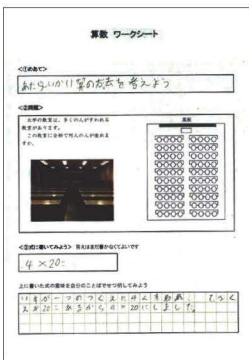


しまねの算数授業改善推進校のひとつ出雲市立大津小学校で、ICT機器を使って問題場面を共有している授業の様子。児童は意欲的に取り組んでいる。

## 古い授業観を転換して 子どもも主体の授業作りを

県教委は平成27年9月に、全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)の成績低迷の結果を受け、「しまねの算数授業改善プロジェクトチーム」を立ち上げました。その座長を任されたのが御園准教授です。当時の調査結果によれば、学力テストの結果も「算数が好き」と答えた子どもの割合も低迷していました。「自分で考えてそれを表現し、みんなで対話しながら、算数で学ぶ概念の意味理解を深めていくことで、算数の力は伸びていきます。教師による教え込みではない授業観への転換が必要です。それを県では

御園准教授が作成した算数ワークシート。式の意味を説明する項目が多く設定されているが、小学生3年生の児童たちは自分なりの説明を考えて解答している。ワークシートに児童が書いた内容を分析することも研究の一環になる。



「子どもの声でつくる算数授業」というキャッチフレーズで表現しています」と御園准教授。

出雲市立大津小学校での出張授業では、式を書くだけではなく、式の意味や計算の仕方を説明させました。ここでは、すでに学んでいる「かけられる数が10倍になると、答えが10倍になる」ことを踏まえて、新たに「かける数が10倍になると、答えが10倍になる」ことを学びます。計算ができるようになることも大切ですが、このような新たに学ぶことの意味理解を深めていく必要があります。それを明確にできるようにワークシートも工夫したと言います。

このような出張授業や教員研修、講演、学校現場の委員などのほか、附属学校園での研究部長会などの校務も含めると、月の約半分は学校現場に貢献するために研究室の外を飛び回っているそうです。

大学で学ぶ学生の教育観を広げる活動にも積極的です。昨年はタイ、一昨年はシンガポールとアジア地域への研修を行いました。現地

の学校の授業も見せてもらうことを通して、視野を広げ、柔軟な考え方を養ってもらうのが目的です。



島根県立益田高等学校のタイ研修の機会に合わせて、学生の海外研修を実施。写真はコンケン大学附属学校で高校生がプレゼンテーションする様子を撮影。

また数学好きの高校生を増やそうと、年に1回、高校1、2年生向けの数学スペシャル講座も実施してきました。数理基礎教育専攻の学生と一緒にアニメーションやゲームなども活用しながら授業を構想し、高校生に数学を楽しく考えてもらうという企画です。「算数や数学というのは、分かれば本当に面白いんです。意味理解を深めて、たくさんの人に数学が使えるようになってほしいです。その環境づくりが教師の仕事だと考えています」。御園准教授の精力的な活動は、算数や数学の教育のあり方を少しずつ変えていきそうです。

総合理工学研究科

# デジタルホログラフィで 塗料の乾燥を可視化 新技術を生む可能性も

レーザー光の特長を活用すれば、物体の形状、楽器などの振動、乾燥や温度などの分布を非接触で測ることができます。総合理工学研究科光応用計測研究室の横田正幸教授が今、力を入れているのがデジタルホログラフィを使った塗装の乾燥評価。世界最先端の技術について横田教授にうかがいました。



大学院総合理工学研究科

## 横田 正幸 教授

Yokota Masayuki

### 【専門分野】

応用光学・量子光学

群馬大学大学院工学研究科博士後期課程修了。2008年4月より島根大学で教鞭をとる。現在は、デジタルホログラフィを中心とした光計測の研究に従事し、塗膜・接着剤・インクなどの乾燥硬化評価技術の開発、ホログラフィック顕微鏡等の研究を行っている。

### 気になるキーワード

#### 夢の新技術 デジタルホログラフィ

光の干渉を利用して得られたホログラムを、コンピュータで処理して立体画像や三次元形状、変形を得るのが「デジタルホログラフィ」。この技術を「乾燥」の評価に使えるのでは、と考えたのが横田教授のユニークな点です。塗面の乾く時間や様子を細かいデータで得られることで、塗料・印刷業界の技術革新や、化粧品等の効能アップも狙えるといえます。

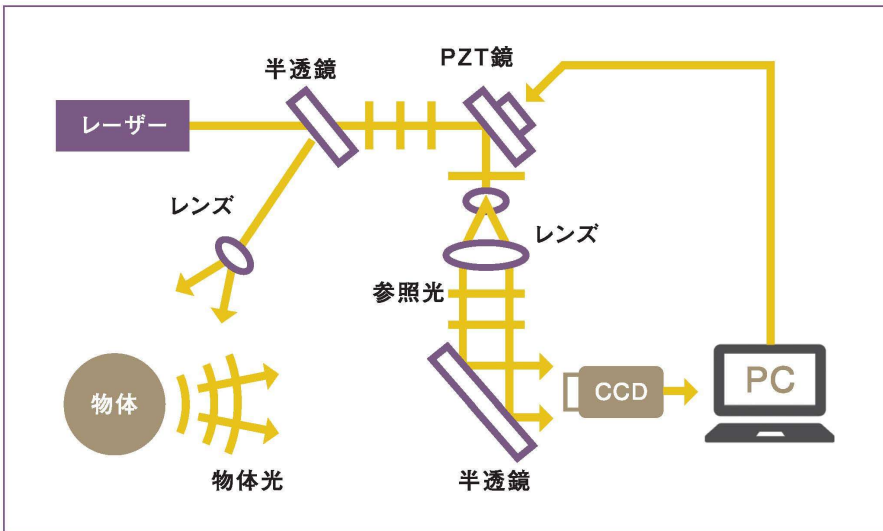
塗料の乾燥具合を  
触ることなく確認できる

塗られたばかりのペンを、そうとは知らずにうっかり触って手についてしまったことはないでしょうか。女性であれば、爪に塗ったマニキュアを完全に乾く前に触って失敗した人もいるかもしれません。「デジタルホログラフィの技術を使えば、どんな形のものでも、どれくらい乾いたかということ画像やデータで知ることがができるのです」と横田教授。「実は、世の中の多くのものに『塗る』『乾燥させる』という現象が使

われています。乾燥の程度を的確に知ること、新たな技術革新や製品開発を生み、人々の生活を変えることもできるのです」と続けます。

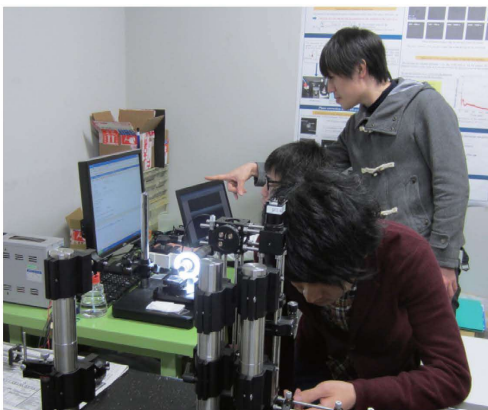
塗料の乾燥は、そもそもどのように調べるのでしょうか。例えばインクやペンキなどの塗料の中には、塗膜を主に形づくる「樹脂」と、色を付けたら、さび止めの効果をもたらしたりする「顔料」、樹脂や油類を溶かして流動的にする「溶剤」が含まれています。この溶剤が揮発し、指の腹で塗膜に軽く触れた時、指に塗料が付かない状態を「指触乾燥」と言います。JIS（日本工業規格）でも、塗料の乾燥具合は直接触って





【図①】デジタルホログラフィの概要

確かめることになっていっています。しかし塗ったすべての部分を触って確認するのは時間がかかり、経験や勘に頼る部分が多くなります。今までも機械で測る方法もありましたが、曲面や二次元面には不向きだったり、分布計測が困難だったり、欠点が少ないからありませんでした。そこで横田教授が考えたのが、デジタル



光応用計測研究室で、研究に励む学生たち。

ホログラフィを使った「触らなくても、乾燥の様子を見ながら確認できる」計測なのです。ホログラフィとは、二次元の形を平面に記録・再生する技法。簡単に言えば、立体的な写真を撮ったり見たりするための技術です。三次元の形を測るためには光を使います。まず、物体に向けて照らすレーザー光を、半透明な鏡で2方向に分けます。一つは鏡で反射させ、もう一つは測定したい対象を照らす。鏡で反射した光と対象から反射してきた光を重ねると縞模様ができます。これをフィルムで記録した後にもう一度光を照らすと画像が浮かび上がるという仕組みです。さ

### 世界でも最先端の研究が 新たな技術や製品を生む

らに、この縞模様をデジタルカメラで記録することで、二次元の形状や変形具合を数値で得ることができず(図①参照)。

「目視では分かりにくいのですが、塗料を塗った表面は溶剤が揮発したり、それに伴って顔料が移動したりと、激しく変位・変形しています。デジタルホログラフィを使えば、その様子を一定間隔で記録、再生すれば、どこがどれくらい乾燥しているかを見ることができるので」と横田教授。「例えば、車の塗装を思い浮かべてみてください。車って曲線やくぼみがあったりするのですが、場所によって乾くスピードが違います。デジタルホログラフィは、複雑な塗装面でも場所ごとの乾き具合が画像で確認でき、時間も分かるのです」と続けます。



(株)東洋精機製作所と共同研究で開発し、2016年6月より発売を開始した「キュアテスタ」。JST(科学技術振興機構)のホームページでも紹介された。

置「キュアテスタ」を開発。世界でも最先端を走る研究を進めており、マツダや日産、トヨタなど大手自動車メーカーからの相談も少なくないそうです。「デジタルホログラフィを研究している人はたくさんいる。でも乾燥に目を付けたのは僕が最初かもしれない。世界一の研究ができる面白さもありますね。共にチャレンジしてくれる仲間を大歓迎します」。

この技術を生かせば、化粧品や塗り薬の効能アップや、電子・電気機器内の各種部品を印刷する技術(プリンタブルエレクトロニクス)の向上にもつながると考えられます。「干し柿も興味深い研究対象ですね」と横田教授。デジタルホログラフィを用いた乾燥評価がどんな展開を見せるのか。横田研究室から目を離すことができません。

今回紹介する  
自治体は…  
松江市

# しまだい × 島根のまち

各学部・学科単位で県内様々な市町村とのつながりをもつ島根大学。その  
広いつながりの中で、大学と地域、2つの要素が合わさったとき、一体どのよ  
うな効果が生み出されているのか。具体的な取り組みを交えて紹介します。

水燈路

島根大学  
学生有志

## 学生のアイデアを生かした地域貢献

秋に松江城周辺を彩る一大イベント「松江 水燈路」。数年前に松江観光協会から、行燈を並べる手伝いを依頼されたことから始まり、今では「水燈路」の企画段階から、学生がかかわるようになり、水燈路本番の10月は、毎週末20人程度の学生がスタッフとして参加しています。平成28年度は、子供を対象とした企画やカップルを対象にした企画、全世代に向けた企画等を実施。学生ならではの自由な発想が功を奏し、各企画で1日あたり数十人～百人程度の参加者がありました。リーダーの学生は「松江水燈路最優秀功労賞」を、その他の学生も「松江水燈路感謝状」を松江観光協会からいただきました。

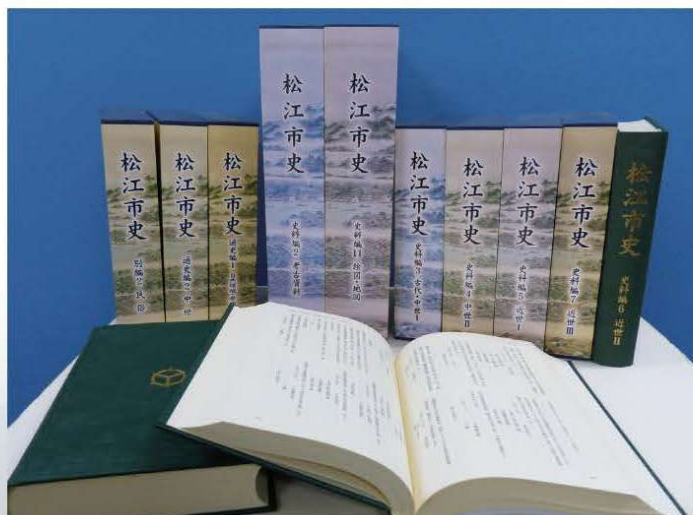


松江市史料  
編集事業

法文学部

## 松江の歴史を俯瞰するための大事業

松江市では、平成19年から始まった「松江開府400年祭」を機に、歴史資料の調査研究体制を整えてきました。その一つが、松江市の歴史を総合的にまとめる「松江市史」の編纂です。編纂委員会は、地元住民代表と専門家で構成され、本学から法文学部の小林准士教授が参加しています。また、各種調査や原稿執筆においては編纂委員会の下、編集委員と執筆委員があたっており、編集委員には本学からも多数の教員が参加しています。「松江市史」は、「通史編」「史料編」「別編」で構成され、平成31年度まで随時発行。編纂終了時には、歴史資料を生かす視点と、史料保存の意識が市民に備わっていることを目標としています。



ジュニアスクール  
音楽体験

教育学部

### 音楽で親子の絆を深めるきっかけづくり

松江市に住む小学生の親子を対象とした「ジュニアスクール音楽体験」。この取り組みは、子供たちが音楽を通して豊かな心を培うと共に、家族の絆を深め、家庭の教育力の向上を目的とし、教育学部の学生が企画・立案し行っています。平成28年度は「ブームワッカー」「トーンチャイム」という、珍しい楽器の演奏体験や、吹奏楽団との共演を行ったり、音楽劇にリズム遊びを盛り込んだ内容を実施し、親子で楽しんでもらいました。

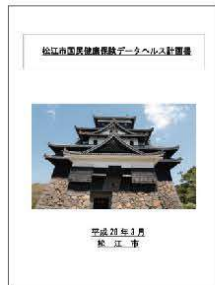


松江市国民健康保険  
データヘルス計画

医学部

### データ分析と対策で健康寿命を延ばす

松江市は、国民健康保険(以下、国保)加入者の健康寿命の延伸、医療費適正化を目標として掲げ、地域統計や医療費等のデータ分析に基づき、国保データヘルス計画を策定しました。この策定にあたり、医学部環境保健医学講座が助言・協力を行いました。松江市の国保加入者の医療費や健康診断結果等を分析。生活習慣病対策として虚血性心疾患の対策を打ち出し、この取り組みの実現による10年後の新規患者の削減人数や医療費効果の試算を行いました。



松江市って  
どんなところ?

島根県 松江市



島根県東部に位置する、同県の県庁所在地。中海や夕日の美しい宍道湖に囲まれ「水の都」としても知られています。国宝に指定されている松江城や武家屋敷、堀川遊覧船など歴史を感じる風情ある町並みも魅力のひとつです。

MATSUE  
CITY



茶の湯文化が息づくまち 松江。  
来年、松平不味公没後  
200年を迎えます。

スマート農業推進

生物資源科学部

### IT技術を活用した農業の普及を目指す

昨今の農業を取り巻く厳しい環境を背景に、最新のIT技術を活用して高付加価値の農産物を生産する「スマートアグリ」普及を目指し、調査研究を進めています。検討委員会には本学の浅尾俊樹教授が参加しています。平成27年にはオランダ視察で具体的なノウハウを学び、現在は、施設園芸農家にモニタリングシステムを導入し、最適な栽培環境やシステム導入の効果等の検証する実証実験の実施に向けて、検討を行っています。



IT人材の育成

総合理工学部

### 地元企業と協働でIT人材を育成

総合理工学部数理・情報システム学科情報システムコースでは、社会の要求をITで解決するデザイン能力などを身に付ける「システム創成プロジェクトⅢ」を開講しています。なかでも、3年生を対象とした「システム創成プロジェクトⅢ」では、県内企業7~10社からメンターを招聘。学生達がチームを組み、メンターのアドバイスを受けながら、Ruby等を用いたシステム開発を1年間行います。ITの担い手として、地域や世界で活躍するエンジニアの育成を目指しています。





大学のホットな情報をお届け

# しまだい便り

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から、大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えます。



## 学生視点からの「住まい」を提案 エネルギー住宅作品コンテストで受賞

1月に審査が実施された「第20回ぐつとぐつと。エネルギー住宅作品コンテスト」(中国電力株式会社主催)において、総合理工学部建築・生産設計工学科の玉井双喜さん、吉田彩野さん、山田汐音さん(指導教員:田中直人特任教授・小林久高講師)が学生部門の審査委員特別賞を受賞しました。

このコンテストは、平成9年より毎年開催されており、今回が20回目。地域の気候風土に対応したエネルギー効率の良い住宅の普及を目的に様々なアイデアを募集。今年度から新設された「学生部門」においては、人・環境・住空間が調和した快適な住まいのアイデアが求められました。

受賞した玉井さんらの提案は「季節と共に」というタイトルで、開放的な2階建ての住宅を設けたうえで、

季節の変化に応じて外周のビニールハウスを増減させていく設計になっています。「四季が街の様子や人々の生活スタイルを変化させるように、建物にも季節に応じて服を着せたりすることで季節に溶け込む」というコンセプトで、斬新な発想でありながら機能とデザインを両立させた点が高く評価されました。

## 地域の信用保証協会と新たな協力関係を構築 島根県信用保証協会と連携協定を締結



1月10日、島根大学は新たに島根県信用保証協会との包括的連携に関する協定を締結しました。同協会と本学とは、これまで本学学生のインターンシップの受入れや本学の授業への講師派遣を実施。今回の協定締結により、地域を支える人材の育成、中小企業を中心とする地域産業の振興、地域における起業・創業支援等で相互に協力し、より緊密な連携・協力を推進していくことになりました。

## すべての評価項目において「順調に進んでいる」と評価 平成27年度島根大学の業務実績に関する評価結果

**平成27年度の実績で注目された取組等(抜粋)**

- (1) 人間科学部の平成29年度設置を決定
- (2) 県外での活動による知名度・存在感の向上
- (3) 地域の課題解決に向けた研究とその成果の還元
- (4) 地域と連携した地方創生に向けての取組
- (5) 地域活性化につながる社会人学び直しの推進
- (6) 高度で先進的な医療の推進

詳しい情報は島根大学HPへ  
TOP > 大学紹介 > 大学運営・将来構想・点検評価 > 中期目標・計画、年度計画等

島根大学を含む全ての国立大学法人は、各年度の業務の実績について報告書を提出し、文部科学省に設置されている国立大学法人評価委員会の評価を受けることが義務付けられています。昨年11月15日に国立大学法人評価委員会から通知された平成27年度の実績の評価結果において、島根大学は全ての評価項目において「順調に進んでいる」と評価されました。

新設の各コースとも地域の課題に取り組むとの事。今後さらに開かれた大学を目指して下さい。

広報紙を読んで大学の活動に関心を高めています。地域の活動に取り組んでいる者にとって参考になります。

島根大学は島根の誇りです。孫に進学させたく思っています。



## 優れた教育の実践と研究実績を表彰 優良教育実践表彰、研究表彰及び若手研究者表彰を実施

昨年9月12日に優良教育実践表彰を、10月17日に研究表彰及び若手研究者表彰の表彰式を実施しました。優良教育実践表彰では、所属学部の学部長や教員が優れた教育実践の概要紹介を行い、9名の受賞者に服部学長より表彰状が贈呈されました。学長からは、今後も教育改善を牽引する力となつて欲しいとの期待が述べられました。また、優れた研究実績に対する功労を大学として評価することを目的とした研究表彰では3名を、若手研究者表彰では、特に研究成果が顕著と認められた7名を表彰しました。今後の受賞者の更なる活躍が期待されます。



## 世界の現状と課題について学ぶ 紺野美沙子氏特別講演会を開催

2月13日、本学国際交流センター主催にて、併優で国連開発計画親善大使の紺野美沙子氏による特別講演会を開催し、本学学生および教職員、学外関係者など約100名が参加しました。「国連親善大使として見てきたこと、感じたこと、島大生に期待すること」をテーマに、紺野氏がこれまで訪問したカンボジアやケニアなどの現状、世界の課題に積極的にチャレンジして欲しいというメッセージを学生に語られました。質疑応答では、これまで海外ボランティアに参加した学生や国際協力に関心ある学生から多くの質問があり、白熱した講演会となりました。



## 技術を経営的な立場から考える 平成28年度しまね地域MOTセミナー開催

島根大学産学連携センターでは、県内関連機関と連携し、MOT(※)セミナーを平成17年度から開催しています。今年度は「顧客価値と技術から展開する新商品・事業開発手法」をテーマに3回開催し、地域企業の方や島根県立大学の学生の参加がありました。今後もMOTの普及や人材育成に努めるほか、MOTが生かされ地域での新事業やイノベーションの創出に繋がって行くことを期待しています。



## 地域団体の活動や成果に身近に触れる 「地域コミュニティラボ」オープン

附属図書館では、「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」の一環として、「地域コミュニティラボ」を開設。これは、地元企業や行政機関、NPO法人など様々な地域団体が行っている活動や成果を、学生や市民の方々が身近に触れることができる場として、附属図書館展示室を活用するものです。展示を通して、様々な活動へ関心を持つてもらおうきっかけになることが期待されます。

※MOT…Management of Technology

学生活動紹介

# しまだい Active

SHIMADAI + ACTIVE

学業はもちろん、部活や大学行事、学内イベントなど、学内外問わず様々な場面で活躍する島大生の活動や、学内のできごとを、学生プレス研究会が紹介します。

活動  
01

## 「しまね若者100人のつどい」 学生、社会人が交流

毎年、夏と冬に開会される「」はじめましてから始める「しまね若者100人のつどい」が昨年末、パルメイト出雲で開催されました。「若者」というのは実際の年齢に限らず、これからの島根を皆で一緒に楽しく考えることができる、精神的な若者のこと。そんな熱い人が一堂に集まるイベントで、島根県内

外の学生や多くの社会人が参加し、積極的に交流を図っていました。

交流会をメインとして行われていたこれまでの会とは趣向を変え、参加者は午前、午後を通じた講演形式で「関係力」について学び、討論を通じて「他者との関わり方」について学びました。

講師に島根県レクリ

今回は、

「しまね若者100人のつどい」と「シアターちよこざいの公演」について紹介します。

活動  
02

## 演劇部シアターちよこざい 「限界密室」を公演

松江市殿町の県民会館でこのほど、演劇部サークル「シアターちよこざい」による「限・界・密・室」が上演されました。プロジェクターを使い、効果音とともに、舞台上引き込みこんでいく、熱い演技で観客を魅了していました。



僕たち学生プレス研究会が、大学の気になる“今”を伝えます!





エーション協会の木村真介さんを迎えてイベントが行われました。簡単なアイスブレイクから始まり、その後ディスカッション形式で進められました。前回までの「100人のつどい」では若者が一堂に会し交流する場としていましたが、せっかく

の機会に人とつながることができるよう勉強を、と交流はもちろん「関係力」についての勉強会も併せて開催されました。

人と人との価値観の違いや人と対話した時に自身や他人からどのように見られているかなどを知ることができ

る内容で、参加者は興味深そうに真剣に取り組んでいました。参加者からは「自分自身を見つめなおす良い機会になった」との感想が聞かれました。「しまね若者100人のつどい」は、今夏にも開催される予定です。(学生プレス研究会・川功行)

## SHIMADAI + ACTIVE



演出は金行美帆さん(生物資源科学部)で、今回が初の外部公演です。当初は役者志望だったが演じているうちに演出にも興味が出てきたそう。

物語は、5年前の密室殺人事件のことを調べていた記者

が、警察に資料を持ち込んで来るところから始まり、事件の回想を5人の役者が鬼気迫る演技で繰り広げていきます。

妹の自殺の真相を調べていく姉は、SNS上で「死にたい」と書いた妹に4件の自殺を促す内容の返信を見つめます。返信を書いた4人を突き止め、山奥の部屋に監禁し罰を与えていくというストーリー展開。姉は被害者を装い、4人が罰を受けていく様を見

届けていきます。

罰は大切なものを犠牲にすることで、ある者には愛の裏切りであり、ピアノ演奏者には指を犠牲にする罰だったりします。が、最後に被害者に扮した姉に命を犠牲にしるという指令がくだり…。

犠牲を払う場面での演技は、それぞれ緊迫感が伝わってきました。中でも栗坂和弥さん(教育学部)の演技は、巨額の損失をする社長という難しい役柄でしたが、社長の風格をしっかりと表現しながら、感情だけではどうにもならないという振る舞いをうまく表現していました。次回公演は夏に予定されています。(学生プレス研究会・渋谷郁佳)

### 読者の声 Voice

広報しまだい vol.31に寄せられた声をお届けします。

島大の学生と地域との交流など  
興味が湧きました。

(島根県浜田市・60代男性)

ご縁の国、島根!地域活性化のために、子供たちやお年寄りにも優しい大学でありますように。

(島根県浜田市・40代女性)

# キラリ★島大生 学びのチカラ ②

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究等の活動の特集するシリーズ企画です。今回は、「ものづくり部Pim(ピム)」の部長として精力的に活動する総合理工学部の佐藤さんに、活動の内容や今後の展望について伺いました。



こうじ  
佐藤 公治 さん

総合理工学部  
機械・電気電子工学科  
理工特別コース 4年

出雲市出身。2014年、理工系学生を中心に、非公認サークル「ものづくり部Pim」を結成。



個性豊かなPimのメンバー。

## イノベイティブな仲間とともに 人の生活に根付いたモノづくりを

部の売りは「二人一技術」  
モノづくり人が集う場所

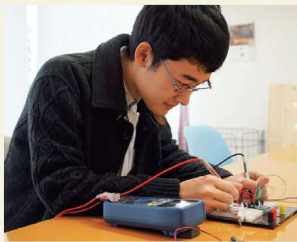
実際の場で技術を提供  
企業とも研究開発でコラボ

すよね」と、モノづくりの喜びを実感しているそうです。

高校時代から電子工作やモノづくりが好きだったという佐藤さん。大学入学後わずか2週間ほどで立ち上げたのが「ものづくり部Pim」です。クリエイティブな人が集まれる場所を作りたいとの思いから始まったサークルで、現在の部員は31名です。IoT(※)デバイスの製作や、3Dプリンター・レーザーカッターを使った製作活動等を行っています。部員の興味を尊重し、やりたいことができるよう環境を整えています。活動費用はすべて自分たちで負担

しているため、佐藤さん自ら支援を求め、企業へ交際に行く等、金銭面での苦労も多いそうです。

現在の主な活動場所は「コトコロ(フラフアブ)」です。アプリ開発の『フランジア・ジャパン』が松江に開設したオフィスで、佐藤さん達はここを利用し、企業のプロジェクトにエンジニアとして参加することもあるそうです。現在、佐藤さんは「SakeLogger(サケロガー)」というプロジェクトに携わっています。酒造りの過程では、杜氏が数時間おきに温度や湿度を測らなければなりません。その数値を自動で取得・蓄積できるシステムです。「これを使えば人の手間は電池の交換だけなので、杜氏さんの負担がかなり減ります。自分の技術が誰かのために役立つのはうれしいです。



SakeLoggerの消費電力を測定中。

自らの強みを生かしつつさらなる飛躍を目指したい

Pimの良いところは「モノを生み出せること」と話す佐藤さん。「根本的に解決したい問題は生活の中にあります。問題を見つけないことと解決案を出すことは簡単にできても、解決する道具を作ることは普通の人には難しい。だから、それを作ることができるというのが自分たちの強みなんです。」

今後も活動を続けていくにあたり、「技術は伝えないと分からなくなってしまうので、後輩への技術の継承に注力していきたいです。一人一技術以上を目指したいですね」と、部としての目標を掲げる一方、「新しい技術を貪欲に吸収して、人の助けになるような製品を作っていきたい」と自身の抱負も語ってくれました。

※IoTとは…「Internet of Things」の略。身の周りのあらゆるモノがインターネットに繋がることで、生活がより便利になるという考え方。仕組み。



多様な分野の「ひと」と「ひと」を結ぶ

# しまね女性研究者 ご縁ネット

平成28年6月、研究分野や年代を超えた研究交流の  
ための女性研究者のネットワークとして、「しまね女性  
研究者ご縁ネット」が島根大学に発足しました。



詳しくは

島根大学 男女共同参画推進室 HPをご覧ください。  
<http://gender.shimane-u.ac.jp/>  
※Facebookページあり



## しまね女性研究者 ご縁ネット 設立宣言

「男女が性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は緊要の課題」とする男女共同参画社会基本法が公布施行されたのは、平成11年のことでした。国内の大学、研究所においても、科学技術のさらなる発展のために女性研究者支援の取り組みを開始し、島根大学でも平成20年に男女共同参画推進室を設置し、様々な支援策を行ってきました。  
しかし、学内では少数派に属する女性研究者が、各部署で時に孤立しつつ、教育・研究と家庭責任との両立に悩むという基本的な構図は残念ながらあまり変わっていません。

「しまね」という地縁を大切に思う女性研究者がつながり、支えあい、そして互いに高め合っ、世界に成果を発信する研究リーダーとなることを目的として、本日、ここにしまね女性研究者ご縁ネットを設立します。  
このネットワークで、島根大学に在籍する女性研究者のみならず、島根県内の大学、高等専門学校、研究機関、企業で働く女性研究者や高い専門性をもつ女性技術者が結びあい、共同研究や新たなチャレンジに繋がる「ご縁一人の縁」が広がっていくことを期して、ここに活動を開始します。

平成28年6月12日

## 女性研究者が繋がり 話し合える場の創出

きっかけは「もう少し話し気軽に自分の分野と違う人たちと話し合える場があってもいいのでは？」という若手女性研究者の一言。その一言に好奇心が刺激され、話し合いの場を創ろうと動きだしました。

教育と自身の研究に迫られる中で、一歩踏み出すのはなかなか難しいため、スタートは小さい範囲—島根大学の女性研究者の集まりからでした。また、これまでの男女共同参画の活動も振り返り、実現できなかった部分とそうでない部分を明らかにしました。その過程で、互い

に高め合い、少しでも上を、そして世界を目指したいとの気持ちを再確認。そこで、その思いを「ご縁ネット設立宣言」という形にしました。

## 継続的な活動によって さらなる縁の広がりを

「ご縁ネット設立宣言」の趣旨に賛同したのは31名。そのうち、島根大学の医学部、法文学部、教育学部、生物資源科学部、教育・学生支援機構、研究・学術情報機構所属の11名が第1回交流会に集まり、「研究交流やネットワークから生まれてくるもの」としてこのネットワークに何を期待するのかについて話し

合いました。

この活動は始まったばかりですが、研究者の繋がりを大学内だけに留めるのではなく、新たなチャレンジに繋がる「縁」を広げるために島根県内の研究機関、企業で働く女性研究者や専門性をもつ女性技術者の方々にも参加の呼びかけを広げていく予定です。

異なる分野の研究者が定期的に集まり話し合う中で、共同研究やプロジェクトに繋がりそうなアイデアが生み出され、島根県内でイノベーション産出に繋がる共同研究等に発展する取り組みになることを目指し、一歩一歩進めていきます。

**荒れた森林を元気にしよう!**  
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを  
まもろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎  
**神在の里** 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された  
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6240  
<http://omise.seikyoku.jp/shimane>

求人情報 **メリット**  
最新・最新のおしごと探し  
**メリット**  
鳥取・島根のおしごとサーバー  
**Webメリット**

お仕事見つかる  
**メリット**

株式会社メリット  
松江市古志原5-2-43  
TEL.0852-23-1749

# しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

## 少林寺拳法部



2. 部活は水・土曜の週2回。水曜は部員同士で教えあい、土曜はOBから指導を受けています。2. 部員のレベルに合わせて技を練習していきます。

## 肉体と精神の両面を鍛えつつ技を磨く日々

鋭い気合いが発せられ、緊張感が漂う「少林寺拳法部」の稽古場。現在の部員は16名で、そのうちの半数が女性です。「激しいイメージが強いかもしれませんが、少林寺拳法の基本は体の使い方にあるので、護身術を身に付けるため入部する女性も多いんです」と工藤主将は話します。

少林寺拳法の大会は「演武」で競います。毎年県大会では多数入賞し、全国大会への切符を手にする部員もいます。審査員をはじめ多くの観客が見守る中での演武は、精神面も鍛えられ、自らの自信にも繋がるそうです。今後について工藤主将は「技術を身に付けることを優先した練習を増やしていきたい」と話してくれました。さらに力強さが増すであろう少林寺拳法部から、今後も目が離せません。



1.

## 近年の部員数増加で活気に溢れる稽古の場

旧島根医大時から続く、歴史あるサークル「医学部茶道部」。毎週火曜日に、学外から裏千家の先生を招いて活動しています。試験や実習等で全員が顔をそろえる機会はまれですが、一人ひとりが忙しい合間をぬって茶道と向き合っています。現在、日頃の成果を披露する舞台は、10月の大学祭と7月に出雲市内の福祉施設で行うお茶会の年2回です。ここ2、3年で部員が増えたことで、「特別なお点前をしてみたい」や「お披露目の機会を増やしたい」等、部員から様々な意見が出るようになったそうです。部長の佐藤さんは「部員の希望に可能な限り応えられるような環境作りをしていきたい」と、抱負を語ってくれました。今後、さらに活動の幅が広がることが期待されます。

出雲キャンパス

## 茶道部



1.



2.

1.現在の部員数は20名。半数以上が大学に入ってから茶道を始めました。2.お稽古の最中は真剣そのもの。茶室には凜とした空気が漂っています。

安部 潤選手に  
Interview

## プロ選手は夢を与える仕事。 夢や目標を持つきっかけになる存在でいたい。

「スポーツを通じて島根をもっと元気に。」そんな思いを胸に、地域での活動も積極的に行う選手たち。そのひとつに、県内の小学校を訪れて一緒に体を動かし、夢について語り合う「夢授業」がある。選手自身がこの夢授業にかける思い、そしてホームである島根に対する思いについて、松江市出身の安部選手にうかがった。

### —安部選手が子どもたちへ語る夢とは?

夢授業では、バスケットを始めたいきっかけから、どうやってプロになったのかを話していますが、その中で僕が伝えているのは、勉強にしても遊びにしても、1日1日を大切にすることです。そこから、自分がやりたいことがきつと見つかると思うので。

### —子どもたちの反応は?

すでに夢を持っている子たちにとっては、夢へのモチベーションアップに、まだ具体的な夢がない子たちには、将来を考えるきっかけになっているみたいです。プロ選手というのは、夢を与える仕事だと思って

います。僕自身、夢授業を通して、子どもたちが夢や目標を持つきっかけ作りをしたいという思いが強くなりましたね。

### —スサノオマジックの選手として、島根を盛り上げるためにやるべきことは?

まずは、B2での優勝、B1への昇格が目標です。B1に昇格すれば注目度が上がるので、全国の人に島根を知ってもらうきっかけになる。それが結果的に地域の活性化にも繋がると思っています。あとは、夢授業やピラ配りなど、地域での活動も積極的にやって、もっと身近な存在になりたいですね。

B1への昇格と、地域に根差した活動を通して、さらに島根を盛り上げていきたいと話す安部さん。今後もスサノオマジックの活躍から目が離せない。



profile

### 安部 潤 選手 #32

島根県松江市出身。ポジションはシューティングガード。東海大学4年時の2008年関東大学バスケットボールリーグ戦で優秀選手賞受賞。卒業後は三菱電機と契約。2014年6月、島根スサノオマジックに移籍。

	試合日	開始時間	対戦チーム	会場
4月からのホームゲーム	4/15(土)	18:30	鹿儿島レブナイズ	鹿島総合体育館(松江市)
	4/16(日)	13:30		
	4/22(土)	18:30	愛媛オレンジバイキングス	松江市総合体育館(松江市)
	4/23(日)	13:30		

### 島根大学 支援基金 寄附者一覧

#### 個人からのご寄附

ご協力ありがとうございました。 ※平成28年11月1日～平成29年1月31日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

秋重幸邦 秋吉英雄 荒瀬 榮 井川幹夫 上園昌武 大西礼華 小俣光司 菅野哲介  
河野美江 坂本和博 佐藤利夫 千家充伸 為石勝美 出口 顕 服部泰直 平川正人  
藤本 進 松浦晃幸 元上竹松 門城祐司 吉木 茂 吉田和信

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送いたしますので、お問い合わせください。

TEL 0852-32-6603(総務課)

ホームページ [http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/)

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

## 編集後記

花が咲き、暖かい陽気に包まれる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。毎年この季節には、桜の花が各所に咲き始め、町の色が明るくなっていくのを見ると、とてもうきうきとした嬉しい気持ちになります。

桜といえば、本学の本庄農場では様々な品種の桜を栽培しており、毎年春になると見事な花が咲き誇ります。昨年農場に訪れた時には、晴天の青空に雲の白、森や草の緑に桜のピンク色が映え、本当に素晴らしい景色でした。今年度はどんな景色に出会えるのか楽しみです。

さて、広報しまだい32号はいかがでしたでしょうか。特集1で掲載したSCOPをはじめ、今号は本学で活躍する学生の活動を中心に掲載しました。努力が実り、自信を持った笑顔を見せる学生たちの姿に触れると、感慨深いものを感じ、自身ももっとがんばろうという意欲が湧いてきます。まだまだお伝えしきれませんが、本学のみならず、学外のような場所で活躍する学生たちを共に応援していただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

### 投稿の お願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

### 投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室  
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6019  
E-mail [gad-koho@office.shimane-u.ac.jp](mailto:gad-koho@office.shimane-u.ac.jp)  
HP <http://www.shimane-u.ac.jp>

### PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「ゆずジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/平成29年6月9日必着



知的好奇心の旺盛なあなたへ

# 島根大学

# 市民パスポート会員のご案内



市民パスポート会員とは、  
年会費5,000円で  
どなたでも入会でき、  
様々なサービスを1年間  
(4月1日～翌年3月31日)  
ご利用いただけます。



島根大学は新しい学びなおしのスタイルとして、  
社会人のための市民パスポート会員を募集します。

### 市民パスポート会員向け講義についての 情報提供と受講

本学が実施する「公開講座」や正規の授業を地域の方に開放する  
「公開授業」及び「大学開放事業」に無料で参加できます。

### 地域学習支援ITシステムを用いた講義の聴講

本学で開講されている授業等をインターネットを経由して無料で聴講できます。

### 広報しまだいの送付

本学が年4回(4月・7月・10月・1月)発行している、  
本学の教育、研究及び地域貢献活動についての  
情報を提供する「広報しまだい」をお送りします。



### 附属図書館の利用

- ①会員の方は、会員証の提示により、ご利用できます。
- ②本学が所蔵する図書を5冊(2週間)まで借りることができます。  
なお、研究室所蔵の資料、雑誌、AV資料、貴重資料等は貸出できません。

### 学生市民交流ハウス(松江キャンパス)の利用

本学の学生と地域の方々とのコミュニケーション及び交流する場として、  
松江キャンパス内「学生市民交流ハウス」を利用できます。

### 大学施設の利用

本学の施設(教室・体育館・野球場・テニスコート・陸上競技場・  
サッカー場等)を半額料金で利用することができます。  
ただし、会員が主催する催事で、本学が承認したものに限りです。

### 各種催事(国際交流、学生との交流など)への参加

会員を対象とした国際交流や学生との交流などの催事に無料  
(ただし、実費等が必要なものがあります)で参加できます。



【お問い合わせ先】  
島根大学 市民パスポート会員担当  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL:0852-32-6603  
E-mail: webinfo@office.shimane-u.ac.jp

詳細は島根大学ホームページから  
ご覧ください。

<http://www.shimane-u.ac.jp/>